



ながらこども園

令和2年6月30日 発行

梅乃木荘、福祉センターでの代替え保育が始まってから約2週間が経ちました。お子さんたちは少しずつ環境の変化にも慣れてきたように思いますが、ご家庭での様子はいかがでしょうか。いつもと違った行動や言葉が見られる、今まで出来ていたことが急に出来なくなってしまったなど、心配な事がありましたらお知らせください。園でもお子さんの様子の変化に気をつけて参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

保健師 牧野 利香

### 新型コロナウイルス感染症予防にご協力いただきありがとうございます

日頃より、健康カードの記入及び登降園時のマスク着用、消毒等ご協力いただきありがとうございます。予防の徹底により、新型コロナウイルスをはじめ、その他の感染症についても流行を抑えることができています。引き続きご協力のほど、よろしくお願いたします。

また、梅雨に入り寒暖差から発熱や咳、鼻水等の症状が見られるお子さんが多くなってきました。症状がある場合は登園を控え、やむを得ず登園される場合は受診状況や症状の経過、程度等をお知らせいただけますようお願いいたします。

また発熱の場合、解熱後 24 時間はご自宅で様子を見ていただくようお願いいたします。

### 7月から身体測定の方法を変更します

これまで登園時の服装のまま測定しておりましたが、7月からはパンツ(おむつ)一枚で測定します。

成長の目安としてだけでなく、子どもたちの発育状況を正しく判断できるようにするため、ご理解いただけますようお願いいたします。

また、測定日は体を清潔にし、着脱しやすい服装で、髪の毛を結んでいるお子さんは身長を測りやすいよう髪留めの位置を工夫していただく等ご協力をお願いいたします。

**身体測定日**

5歳児	7/14(火)、8/4(火)
*4歳児	7/17(金)、8/5(水)
3歳児	7/17(金)、8/4(火)
2歳児	
*1歳児	7/21(火)、8/19(水)
0歳児	



## 乳幼児に多い皮膚トラブル

乳幼児の肌はとても敏感です。特に汗をかき夏場は、さまざまなトラブルが起こりやすくなります。そのまま様子を見てよい場合もありますが、赤く炎症を起こしている、はれが中々ひかない、かき壊して傷が出来ている場合は受診しましょう。

## スキンケアは「清潔」と「保湿」がポイント

乳幼児は大人に比べて肌が薄く皮脂の分泌量も少ないため、乾燥しやすく外部の刺激から肌を守る機能が未熟です。そのため、ちょっとした刺激にも皮膚トラブルを起こしやすくなります。肌への刺激を最小限にするため、肌を清潔に保ち、乾燥しないよう、夏でも保湿を心がけましょう。

**汗疹(あせも)**  
背中、ひじの内側、首、手首のくびれなどに多く現れます。白く小さな発疹は1~2日で治りますが、赤くなると強いかゆみを伴って、治りにくくなります。

**汗をかいたら洗う**  
石けんやボディソープをよく泡立てて、泡で優しく洗います。首や足の付け根、股など、皮膚が重なり汚れがたまりやすい部分はシワを伸ばして洗いましょう。

**洗ったあとは保湿**  
夏でも汗をかいたり、冷房の使用等によって肌は乾燥します。肌を保護して汚れや刺激から守るためにも年間を通して保湿を心がけましょう。夏はさらっとしたローションタイプ、冬は少しベタベタしたクリームタイプの保湿剤がおすすです。

**おむつかぶれ**  
おむつに触れている部分の皮膚が赤くなり、ひどくなると赤いぶつぶつや斑点ができます。おむつはこまめに交換し、清潔を保ちましょう。

**虫刺され**  
自然の多い野外に出かける時は、肌の露出の少ない服装にしたり、虫よけグッズを活用しましょう。ハチに刺されて呼吸が荒くなり、嘔吐、発熱といった症状が見られたら、大至急救急車を呼びましょう。

**8月7日は「鼻の日」**  
鼻は呼吸の出入り口。ウイルスや細菌の体への侵入を食い止める役割を果たしています。鼻水や鼻づまりをほうっておくと、鼻やのどの粘膜が炎症を起こし、他の病気の原因になることもあります。鼻水・鼻づまりが気になったら、早めに病院を受診しましょう。そして家庭では、鼻水が出たら拭く、鼻がつまったらかむ、という生活習慣が身に着くよう、繰り返し伝えていきましょう。

**\*\*\*\*\*上手に鼻をかみましょう\*\*\*\*\***

片側の鼻の穴を押さえながら、少しずつかむようにしましょう。強くいっぺんにかむと、鼓膜を傷つけ中耳炎の原因になることもあります。また、鼻をかんだ後は手を洗いましょう。

**植物によるかぶれ**  
かぶれやすい植物には、ウルシやハゼノキ、ヌルデがあります。かぶれた場合は、流水でよく洗い流します。

**とびひ**  
あせもや虫刺され等をひっかいたり、転んでできた傷に感染を起こすととびひになります。接触により感染し、火事の飛び火のようにあっという間に広がることから「とびひ」と言われます。患部が周囲に触れないよう、ガーゼ等で覆い、症状が広がる前に受診しましょう。

**マスクの着用について**  
2歳未満のお子さんについては、呼吸への負担や窒息、熱中症のリスクが高まることからマスクは不要との見解が日本小児科医学会より出されています。これを受け、園においても未満児のお子さんは原則マスク不要といたしました。マスクを着用しているお子さんについては、体調の変化に注意し、危険と判断した場合にはマスクを外させていただくこともありますのでご了承ください。